

十和田湖は、危険な活火山

JJ1SXA/池

9月27日御嶽山の突然の噴火のニュースに驚かされました、行楽の秋で登山者が多く、犠牲者も多かった、お気の毒です、謹んで哀悼の意を捧げます。

それから約1ヶ月後の10月25日に阿蘇山が噴火しましたが、犠牲者は無かったようで良かったと思います。

御嶽山の噴火を受けて、文部科学省が設けた審議会の地震火山部会が開かれ、現在16ある重点的に観測や研究を行う火山に、新たに御嶽山など9つの火山を加え、今後、観測態勢の整備や研究に必要な人材の確保について検討していくことになりました。

現在、日本の活火山は110とされており、気象庁は、防災対策が必要な全国の47火山を24時間体制の監視対象としておりましたが、火山噴火予知連絡会は、これに近年、火山活動が活発化している、八甲田山(青森県)、十和田(青森・秋田県)、弥陀ヶ原(富山・長野県)の3火山を24時間体制の監視対象に追加することで合意したようです、改めて、日本は火山列島であることを再認識させられました。

最近流行の俄か中年登山家の方は、そんな情報は詳しく知っていないと思います、我々も移動運用に出かけますが、情報を調べ、それなりの心構えを持つべきですね。

数年前に、240の伝播実験で、那須岳に行きましたが、御嶽山のようにならなくて良かったです、常時観測火山47に入り、かつ重点観測火山であり、噴火は何時起きるかも知れない火山に分類されていることなど、露ほども考えませんでした。

それにしても、青森、秋田両県に位置し、四季折々の美しさで多くの観光客を魅了している、あの美しい十和田湖が、危険な活火山とは驚きです。

十和田湖周辺では目立った火山活動を目にすることもないため、十和田湖が富士山や那須岳などと同じランクBの活火山に分類されていることを思い浮かべる人は少ないと思いますが、地質調査や、火山観測によって、十和田湖をめぐる火山活動の姿が色々とわかってきたそうです。

京都延暦寺の僧侶皇円によって編纂された歴史書「扶桑略記」の延喜十五年条(西暦915年)に、京都では輝きがなく月のような朝日が見られたこと、その8日後に出羽の国から、灰が降って二寸積もった、桑の葉が各地で枯れたとの報告があったことが記載されているようです。

長い間この噴火は鳥海山の活動によるものと考えられてきましたが、その後の調査で鳥海山の噴火説は否定され、鳥海山より北方の火山による可能性が指摘されるようになり、調査の結果十和田湖が火山とわかったようです。

物凄い火砕流があったようで、噴火を目にすることができた大勢の人達が犠牲になったことでしょう、付近で洪水があった時に痕跡が発見されているようです。